

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース・国語教育選修

教育学部の教育目的 (具体的に記述・箇条書き)		学校教育教員養成課程の教育目的 (具体的に記述・箇条書き)		教科教育コース・国語教育選修の教育目的		
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。		子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。		日本語能力の育成と文学を通じた日本文化への理解を深めることにより、資質の高い教員を育成する。		
学校教育教員養成課程教科教育コース・国語教育選修のカリキュラム		学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)		教科教育コース・国語教育選修のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)		
授業科目名	授業科目の主題 (箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標 (箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	S1. 教育理論理解力・教職展望力: 教育の理念や制度、教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2. 教育方法・技術力、指導力: 幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力: 道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S4. 教育実践力: 教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。
学部共通科目						
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎		
教職に関する科目(小・中)						
教職概論	1. 教職の意義や魅力、求められる資質・能力などについて理解する。2. 教職への意欲、志向、使命感などを育む。	1. 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2. 教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3. 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. △	1. △	1. △
教育概論	1. 教育を成り立たせる原則 2. 教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	1. 教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 教育について系統的に考えようとすることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			
教育哲学	1. 教育哲学の学問的性格 2. シュプラングの生涯と教育哲学 3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1. 教育哲学の学問的性格が理解できる。 2. シュプラングの生涯と教育哲学が理解できる。 3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			
教育史	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開 2. 日本の教育の歴史的性格	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 日本の教育の歴史的性格について説明することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			
発達心理学	1. 人間の発達の原理・要因について理解を深める。 2. 発達段階及びその発達課題について学習する。 3. 学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	1. 自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 2. 知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 3. 日常生活に密着した興味・関心のある内容に意欲的に取り組む。 4. 心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5. 心理学を科学として位置づけることができる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎		
教育心理学	1. 学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 3. いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1. 子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3. いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		1. ◎ 3. ◎	
教育社会学	本講義では、準備集団における子どもの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1. 社会化概念について説明できる。 2. 子どもの発達に対する準備集団の実態・課題について説明できる。 3. 講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4. 現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎		
教育制度	1. 学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2. 基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1. 学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2. 教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1. ◎ 2. ◎			
教育法規	1. 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1. 現行教育法規の要点が理解できている。 2. 主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	1. ◎ 2. ◎			
社会教育	1. 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1. 生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2. 社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1. ◎ 2. ◎			
国際理解教育概	1. 国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2. 各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3. 現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1. 国際理解および国際理解教育の必要性や概念と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2. 国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3. 日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. ◎ 3. ◎		
教育方法学	1. 授業の基本原則 2. 主体的な学びの成立と指導 3. 教育課程の編成	1. 授業が持つ4つの基本的性格について理解し、説明できる。 2. 児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 3. 教育課程の編成原理と方法について説明できる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		
教育メディア論 (教育課程、情報機器及び教材を含む。)	教授・学習過程(授業)において、(わかる)「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材・教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学習する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計・実施・評価について学習する。	1. メディアを利用した授業の特徴を理解できる。 2. 論理的、批判的思考力と判断力について学び実践できる。 3. メディアを利用した教材の開発ができる。 4. 自発的、独創的に取り組む姿勢がもてる。 5. メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎		
道徳教育	1. 道徳の語源と意味 2. 西欧の道徳観の変遷 3. 道徳教育の目的・内容・方法	1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎	3. ◎	
特別活動	1. 特別活動の目標と内容 2. 学級指導の基本原則と方法 3. 特別活動の指導計画	1. 特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2. 学級指導の基本原則とその方法について説明できる。 3. 特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △
生徒指導概論	1. 生徒指導の意義と目的 2. 生徒指導の内容と方法 3. 生徒指導計画	1. 生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2. 生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3. 生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △

教育相談・進路指導	1. 生徒指導と教育相談の違いについて説明する。 2. 学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	1. 生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2. 不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎					
事前・事後指導	1. 教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする。 2. 教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける。 3. 教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う。 4. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する。	1. 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること。 2. 授業記録を作成することができること。 3. 授業参観を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること。 4. 授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること。 5. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること。 6. 教育実習を通して習得した内容をまとめることができること。 7. 実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること。 8. 教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の実習について説明することができること。	3. ○ 7. ○		4. ○ 8. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎				
小 教職に関する科目(小)										
教科教育法国語	小学校の国語教科書における国語教材の学習指導のあり方について考察する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の国語教育が直面する課題や問題点を検討してゆく。	1. 国語教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 2. 国語教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 3. 国語教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 4. 多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 5. 自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎		5△	1△ 2△ 3△	1△ 2△ 3△ 4△ 5△	
教科教育法社会	1. 小学校社会科の教材研究と教材構成 2. 小学校社会科の授業構成	1. 地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 2. 一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。			1. ◎ 2. ◎					
教科教育法算数	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 2. 小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。			1. ◎ 2. ◎					
教科教育法理科	小学校理科に関わる科学的現象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。	1. 小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる。 2. 小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる。 3. 自然現象を初め、身の回りの現象に広く興味関心をもつ。 4. 理科に関する児童の興味・関心を高める教授法工夫できる。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	4. ◎				
教科教育法生活	生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。	1. 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2. 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について説明できる。 3. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5. 日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎					
教科教育法音楽	1. 小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2. 実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。	1. 小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2. 学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。			1. ◎ 2. ◎					
教科教育法図画	本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学I～IV」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。	1. 普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。	1. ○		1. ◎					
教科教育法体育	1. 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2. 授業は体育領域(海野)と保健領域(友定)に分けて実施する。そのため2グループ編成で、6～7回で担当を交代する。	1. 小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容・教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。			◎					
教科教育法家庭	1. 小学校学習指導要領「家庭科」の歴史の変遷について 2. 現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3. 家庭科の独自性について 4. 授業設計の基本的観点について 5. 指導案の作成	1. 小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2. 家庭や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3. 実習における安全、衛生を説明できる。 4. 家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する。 5. 「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6. 小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7. 授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8. 児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎					
教育実習(初等)	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。			1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		
教育実習(初等)	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。			1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		
教職に関する科目(中)										
国語科教育法I	国語科教育の内容について概観し、指導の実践について考察することができる。	1. 国語科教育の内容について理解できる。 2. 知識を教育実践に応用することができる。	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎	
国語科教育法II	国語科教育の内容について概観し、指導の実践について考察することができる。	1. 国語科教育の内容について理解できる。 2. 知識を教育実践に応用することができる。	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎	
国語科教育法III	国語科教育の内容について概観し、指導の実践について考察することができる。	1. 国語科教育の内容について理解できる。 2. 知識を教育実践に応用することができる。	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎	
国語科教育法IV	国語科教育の内容について概観し、指導の実践について考察することができる。	1. 国語科教育の内容について理解できる。 2. 知識を教育実践に応用することができる。	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎	
教育実習(中)	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。			1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		
教育実習(高)	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。			1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		
教科または教職に関する科目										
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の施設において、合わせて7日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○			◎				

国際理解教育論	1. 国際理解教育とは何かを理解する。 2. 国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3. 国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1. 国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2. 地球的な課題について知識を深め、理解する。 3. 地球的な課題についての自分の意見を持つ。 4. 学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。 5. 学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 6. 複雑な国際問題を理解しようとする。 7. 批判的に考えることができる。 8. 自分の意見を論理的に発表できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ○ 6. ◎ 7. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ○ 6. ○ 7. ○					
教科に関する科目(小学校専門科目)									
初等科国語	本授業ではまず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考察し、次いで小学校国語科授業を構成する基礎となる教材分析の視点と方法について具体的な説明を試みる。	1. 言語の機能について説明できる。 2. 小学校国語科の「内容」の特質について説明できる。 3. 教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4. 言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5. 積極的に教材開発分析に取り組むことができる。 6. 小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8. 文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9. 改革の視点を考えることができる。 10. 授業改革について関心を示すことができる。 11. まじめに取り組むことができる。	1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ○ 8. ◎ 9. ◎ 10. ◎			1△ 4△ 7△	2△ 3△ 6△	5△ 8△ 9△ 10△ 11△	
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視点から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1. 小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。 2. 小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。	1. ◎ 2. ◎						
初等科数学	1. 学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学の問題に自ら取り組む。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。	1. 学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指摘することができる。	1. ◎ 2. ◎						
初等科理科	1(前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 2(後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1. 小学校理科に関する教材を科学的に理解する。 2. 自然現象に興味関心をもつ。 3. 小学校理科の教材研究ができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	3. ○					
初等科生活	1. 小学校低学年の生活科授業を運営して行く上で必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1. 生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2. 体験型授業の基本を理解し、構想できる。	1. ◎ 2. ◎						
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1. 音楽に関する知識や理論が身についている。 2. 意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3. 積極的に音楽的技術の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎						
小学校歌唱指導	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形として、簡易伴奏法及び弾き歌いを学習する。	1. 平易なピアノ曲を、中断せずに最後まで演奏することができる。 2. 小学校の歌唱教材の弾き歌いができる。	1. ◎ 2. ◎						
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の3つの分野を学習する。	1. 小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2. また、美的感覚を練磨する。	1. ◎ 2. ◎						
初等科体育	1. 小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通じた学習として体操・器械運動とラグビーを学習する。 2. なお、実技は2班に分かれ、体操・器械運動とラグビーボールを途中交替してそれぞれ7回ずつ行う。	1. 体操・器械運動とラグビーボールに関する知識およびルールの正確な理解。 2. 講義に真摯に取り組む態度。 3. 体操・器械運動とラグビーボールの実習および指導	1. ◎ 3. ◎						
初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・被服・住居・家族の4領域について学ぶ。	1. 家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する。 2. 各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる。 3. 専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎						
教科に関する科目(中学校専門科目)									
国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)	1. 国語学の基礎的な知識を理解する。 2. 国語学の方法論を修得する。	1. 普段使用していることばに興味を持つことができる。 2. 国語学の基礎的な項目を理解することができる。 3. 国語学の方法論を応用・実践することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎			1. ○ 2. △ 3. ○ 4. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎		
国語史	日本語の歴史的变化について概説する。	1. 日本語の歴史的变化について興味を持つことができる。 2. 日本語の歴史的变化について概観的に理解できる。 3. 得た知識を基に、実践・応用できる。			1. ○ 2. ○ 3. ○	1. △ 2. △ 3. △	1. △ 2. △ 3. △		
国語学特論I	1. 音声学の基礎的な知識を理解する。 2. 音声学の方法論を修得する。	1. 普段使用していることばの音声に興味を持つ。 2. 音声学の基礎的な項目を理解することができる。 3. 音声学の方法論を応用・実践することができる。	1. ◎ 2. ○ 3. ○			1. ○ 2. △ 3. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ○		
国語学特論II	日本語の歴史的变化にかかわる特定のテーマを取り上げて掘り下げていく。	1. 日本語の歴史的变化について興味を持つことができる。 2. 日本語の歴史的变化に関わる特定のテーマについて、深く理解できる。 3. 得た知識を基に、実践・応用できる。			1. ○ 2. ○ 3. ○	1. △ 2. △ 3. △	1. △ 2. △ 3. △		
国語学演習I	1. 現代語文法の基礎的な知識を理解する。 2. 現代語文法の方法論を修得する。	1. 現代語の文法現象に興味を持つことができる。 2. 現代語文法論の基礎的な項目を理解することができる。 3. 現代語文法の方法論を応用・実践することができる。	1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ◎			1. ○ 2. △ 3. ○ 4. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎		
国語学演習II	過去の日本語を記録した資料を読みながら、過去の日本語のあり方、あるいは、それと比べて現在の日本語のあり方について考えていく。	1. 歴史的観点から、日本語について考えていくことと興味を持つことができる。 2. 資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる。			1. ○ 2. ○	1. △ 2. △	1. △ 2. △		
国語特論I	1. 基礎文献の講義を行う。 2. 討議によって、各自のテーマへの理解を深める。	1. 文献読解や解釈に興味を持つことができる。 2. 対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 3. 対象とするテーマを応用し、考察を発展させ、他の受講生に自己の考えを伝えることができる。	1. △ 2. ○ 3. ◎			1. △ 2. ○ 3. ◎	1. △ 2. ○ 3. ◎		
国語特論II	1. 特論Iで行った内容をさらに深める。	1. 文献読解や解釈に興味を持つことができる。 2. 対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 3. 対象とするテーマを応用し、考察を発展させ、他の受講生に自己の考えを伝えることができる。	1. △ 2. ○ 3. ◎			1. △ 2. ○ 3. ◎	1. △ 2. ○ 3. ◎		
国語特論III	1. 特論I、IIで行った各自のテーマの内容をさらに深める。	1. 文献読解や解釈に興味を持つことができる。 2. 対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 3. 対象とするテーマを応用し、考察を発展させ、他の受講生に自己の考えを伝えることができる。	1. ○ 2. ○ 3. ○			1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○		
国語特論IV	1. 特論Iで行った各自のテーマの内容をさらに深める。	1. 文献読解や解釈に興味を持つことができる。 2. 対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。 3. 対象とするテーマを応用し、考察を発展させ、他の受講生に自己の考えを伝えることができる。	1. ○ 2. ○ 3. ○			1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○		
国文学基礎講義	1. 小説分析のための基本的概念と方法を提示。 2. 小説を、内容、素材、形式の相互関係において分析し把握する。 3. 小説分析の結果を文章に表現する。	1. 文学研究に興味を持つことができる。 2. 文学研究の基礎的な課題を理解することができる。 3. 文学研究の基礎的な課題を自分の問題として考えることができる。			1. △ 2. ○ 3. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 2. ○ 3. ○		
国文学概論(国文学史を含む。)	1. 古事記という書物の意味を理解させる。 2. 古代文学の様相を理解させる。	1. 古事記について興味を持つことができる。 2. 神話の解釈を理解することができる。 3. 古事記への解釈を応用・実践することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		
国文学講義I	1. 万葉歌への理解と解釈。 2. 万葉史を様相を理解させる。	1. 万葉集について興味を持つことができる。 2. 万葉集の歌の解釈を理解することができる。 3. 万葉集の歌への解釈を応用・実践することができる。	1. ○ 2. ○ 3. ○			1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○		

国文学講義II	『去来抄』を通して、古典文学の鑑賞の仕方及び古典文学研究の技法の基礎を学ぶ。	1・古典文学に興味・関心をもち、適切に理解することができる。 2・古典文学研究の基礎的技法を身につける。				1◎ 2○	1◎ 2○	1◎ 2◎
国文学講義III	1小説分析のための基本的概念と方法を提示 2小説を、内容、素材、形式の相互関係において分析し把握する 3小説分析の結果を文章に表現し発表する	1小説分析に興味を持つことができる 2小説分析の方法を理解することができる 3小説分析を自分の読みに基づいて行うことができる				1△ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○
国文学演習I	1. 古文を理解させる。 2. 枕草子の文学的な意味を理解させる。	1. 枕草子について興味を持つことができる。 2. 枕草子を理解することができる。 3. 枕草子の文章への解釈を応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
国文学演習II	『おくのほそ道』を通して、古典文学の鑑賞の仕方及び古典文学研究の技法の基礎を学ぶ。	1・古典文学に興味・関心をもち、適切に理解することができる。 2・古典文学研究の基礎的技法を身につける。				1◎ 2○	1◎ 2○	1◎ 2◎
国文学演習III	1小説分析のための基本的概念と方法を提示 2小説を、分析し、その結果を文章表現する 3各自の読みを発表、討論することで自己の読みを相対化する	1小説分析に興味を持つことができる 2小説分析の方法を理解することができる 3小説分析を自分の読みに基づいて行うことができる				1△ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○
国文学演習IV	1. 古文を理解させる。 2. 対象とする古典文学作品の文学的な意味を理解させる。	1. 対象とする古典文学作品について興味を持つことができる。 2. 対象とする古典文学作品を理解することができる。 3. 対象とする古典文学作品の解釈を応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
国文学特講	1. 狂言を理解させる。 2. 狂言の文学史的な意義を理解させる。	1. 狂言について興味を持つことができる。 2. 狂言を理解することができる。 3. 狂言の解釈を応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
国語実習	課題に即して実地調査を計画し実施する。	1・課題に基づき実地調査を実施することができる。 2・調査結果を活用することができる。				1○ 2○	1○ 2○	1○ 2○
漢文学講義	主に中国漢文の、基本的な読解方法と基礎的な知識を、焦点を絞って、習得させる。	1漢文について興味をもつことができる。 2漢文の内容を理解することができる。 3漢文読解により得た知識を応用できる。				1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1△ 2△ 3△
漢文学概論	中国古代の思想をテーマを絞って概説する。	1中国古代思想に興味をもつことができる。 2中国古代思想を理解することができる。 3中国古代思想を学ぶことで得たことを、現実の場で活用できる。				1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1△ 2△ 3△
漢文学演習	中国古典資料を選読する。特に、資料調査力のレベルアップを図る。	1中国古典資料に興味をもつことができる。 2中国古典資料を理解できる。 3中国古典の調査・読解して得たことを、現実の場に活用できる。				1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1△ 2△ 3△
書道I	1. 毛筆による書写を実践する。	1. 書道について興味を持つことができる。 2. 毛筆による書写を理解することができる。 3. 毛筆による書写を応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
書道II	1. 楷書を実践する。	1. 楷書について興味を持つことができる。 2. 毛筆による書写、特に楷書について理解することができる。 3. 毛筆による書写、特に楷書について応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
書道III	1. 行書を実践する。	1. 行書について興味を持つことができる。 2. 毛筆による書写、特に行書について理解することができる。 3. 毛筆による書写、特に行書について応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
書道IV	1. 仮名書きを実践する。	1. 細筆による仮名書きに興味を持つことができる。 2. 毛筆による書写、特に仮名書きについて理解することができる。 3. 毛筆による書写、特に仮名書きについて応用・実践することができる。				1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○
卒業研究	卒業論文作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について、指導を行う	1各自の研究テーマについての先行研究の概要・問題点を説明できる 2各自の研究テーマに関する様々な問題に対して、主体的に考えることができる 3調査結果に基づいて、自らの考えを、論理的に、また、わかりやすく述べる事ができる				1○ 2○ 3◎	1◎ 2◎ 3○	1◎ 2◎ 3◎
GP項目別到達度判定方法（具体的に記述・簡条書き）								
総合的GP到達度判定方法（具体的に記述・簡条書き）								